巻　頭　言

自分の頭で考え前へ進む

1993年４月に看護福祉学部が開設されて，20年目を迎えました．これを受け，昨年9月に開催された本学会の第9回学術大会では，メインテーマを「看護福祉学部20年のあゆみ」とし，初代学部長の中島紀恵子先生をお招きして「看護福祉学部の創設をかえりみて－20年を振り返り，20年先を見据えて－」と題したご講演をしていただきました．中島先生は，まず，ゴーギャンの有名な絵画である「われわれはどこから来たのか　われわれは何者か　われわれはどこへ行くのか」をスライドに示し，自らに問い，考え続けられる学生を育てることの重要性を話されました．日進月歩の医療技術を駆使し，エビデンスに基づいた実践を対象者に提供できる保健福祉医療者を育てるためには，知識を詰め込む教育では限界があります．政治や経済，社会情勢が目まぐるしく変化し，先見性が求められる今日，学生だけでなく教員も同様に，「自分の頭で考え続ける」ことが必要です．

看護福祉学部の歩みを振り返ると，大学院修士課程と博士課程の開設，大学院における専門看護師およびナースプラクティショナーの養成，認定看護師研修センターの設置，臨床福祉学科における教職課程の開設といった様々な取り組みがなされ，まさに先見性に満ちた考えを次々と着実に実現させてきたといえるでしょう．この看護福祉学部学会の設立もそのような取り組みのひとつです．このように常に前を向き，新しいことにチャレンジし続けるには，莫大なエネルギーが要ります．そのためにご尽力くださった旧教員や現教員の方々には心から敬意を表するとともに，これからも前向きにチャレンジしていく精神を「伝統」として受け継いでいかなければならないという責任を感じます．

「伝統」とは，広辞苑によると長い歴史を通じて培い，伝えてきた信仰・風習・制度・思想・学問・芸術などであり，Wikipedia によるとそれまでの歴史の中で形成されて来た種々の形態の中から，特に重んじて次世代に継承すべきものに対する精神的な立場を指します．何年経てば「伝統」と呼べるものができるのか明確な基準があるわけではなく，先達からのたすきを受け継いでいくうちに，いつのまにか受け継がれたものが「伝統」となっていくものなのでしょう．看護福祉学部に培われていく「伝統」には，教員や学生の一人一人がその一端を担っているといえます．

本学会の学術大会も今年は10回目という節目を迎えます．10年そして20年先を見据えて，素晴らしい学生や同僚とともに前に進んでいきたいものだと思います．

第９回学術大会　会長
三国　久美